目から鱗BOOK

猫語の教科書

猫、それはとても愛らしい生き物だ。椅子の上で丸くなって寝ている猫、足元にすり寄ってくる猫。こんなに癒される存在は他にないだろう。しかし、その愛らしい振る舞いはすべて猫の策略で、裏では人間の家を乗っ取る計画を立てているとしたら……。

ある朝、編集者のところへ一本の原稿が届けられた。それはなんと、猫が書いた原稿であった――。この『猫語の教科書』は一匹の家猫が、家主を魅了し、意のままに操る方法を自らの経験をもとに書いた本だ。言ってしまえば「猫による人間の家の乗っ取り方」を示した教科書になっている。

本書は猫による人間観察から始まる。例えば、人間の男性はいつも構ってもらいたがるので操るのは簡単。一方女性は頭が良く、時に残酷な一面を見せることもある。このように、読んでいる我々にも、どこか思い当たることを鋭い言葉で表現している。そして、観察をもとに人間をうまく操る方法が紹介されていく。中でも印象的なのは、人間におねだりするときに足元にすり寄って頭をこすり付けるという方法。これを「よるべなき生き物を救う神さまになった気分の人間の虚栄心をくすぐる」方法と言っているのが興味深い。かわいらしい猫たちはこんなふうに考えているのだろうか？

これだけを読むと、猫は性格の悪い生き物だという話かと思うかもしれないが、実はそうではない。本書は人間という存在を猫の視点から見直すきっかけを与えてくれる。「人間の愛情に対しては用心深くしていなくてはなりません。なぜなら時として、ムチで打たれるより痛い思いをさせられることがあるからです」と語る猫。普段の付き合いの中で、自分にもそういうところがあると感じる人もいるかもしれない。

本書を読むと、「うちの猫は私のことをどう思っているんだろう？」と思わず考えてしまう。猫の一挙一動には実は何か意図があるのだろうか、という想像を膨らませるのも面白いだろう。（和三盆）

『猫語の教科書』
ポール・ギャリコ　著
灰島かり　訳
スザンヌ・サース　写真
ちくま文庫
￥580（税別）

かんたんCooking

――雪降る夜に――スノーボール

材料（20個分）

バター	100g
薄力粉	150g
砂糖	35g
粉砂糖	適量

バターは無塩のもの、砂糖はグラニュー糖を使うとよりおいしくなります。

作り方

1. バターをレンジで加熱し、完全に溶かす。
2. 1に砂糖を加えてよく混ぜ、その後薄力粉を加えてさらに混ぜ、ひとかたまりにする。
3. 生地を20等分に丸めてクッキングシートを敷いた天板に乗せる。
4. 170℃に予熱したオーブンで15～20分焼く。うっすら焼き色が付くぐらいがBEST!!
5. 完全に冷めたら粉砂糖をまぶしてできあがり。

はみだしすてーじ

今年成人式のボクはおとし玉もらっていいの？　（エ・2　ノヤン）
⇒子ども扱いされてもいいならいいのではないでしょうか　（大学生はその曖昧さが許されているのですから；編）